

先生各位

細胞診検査項目名称変更のご案内

ならびに

細胞診検査報告様式変更のご案内

(ベセスダシステム 2001 準拋子宮頸部細胞診報告様式の併記)

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、細胞診検査の項目名称を下記のとおり変更させて頂くとともに、細胞診検査報告書の様式につきましても、従来の報告様式(日母分類：クラス分類)に、ベセスダシステム 2001 準拋子宮頸部細胞診報告様式を併記させて頂くことになりましたのでご案内申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

《 変 更 日 》 平成 21 年 4 月 2 日 (木) 報告分より順次

《検査項目名称変更》

検査項目コード	変 更 後	変 更 前
2 8 0 1	婦人科 直接塗抹法	細胞診 婦人科
2 8 2 2	婦人科 液状検体法	Thinlayer 法
理 由	ベセスダシステム 2001 準拋子宮頸部細胞診報告様式で求められております、 標本の種類(標本作成法)の明示に対応するため項目名称を変更いたします。	

《報告様式変更》

	変 更 後	変 更 前
細胞診判定 内 容	日母分類(クラス分類) ならびに ベセスダシステム 2001 準拋 子宮頸部細胞診報告様式 を併記	日母分類 (クラス分類)
備 考	ベセスダシステム 2001 (通称：医会分類 または ベセスダシステム) の詳細に つきましても、別表をご参照ください。	

《 解 説 》

1973年に考案された日母分類(子宮頸部細胞診報告様式)は、クラス分類の中に推定病変をあてはめたものであり、使い勝手が良く本邦で汎用されておりますが、最近の細胞診断学、また分子生物学の進歩に伴い、子宮頸癌に新たな知見(HPVの関与等)が加わり、また、国際的に用いられる分類との互換性の必要性がでてまいりました。このような背景のなか、社団法人 日本産婦人科医会より、ベセスダシステム 2001 に基づいた報告様式の導入を目的とした日母分類の改定が行われました。

ベセスダシステム2001準拠子宮頸部細胞診報告様式

	ベセスダシステム	略 語	推 定 病 変	日 母 分 類	運 用
標本の適否	適 正			判定可能	
	不 適 正			判定不可能	再検査
細胞診判定	陰 性	NILM	微生物	,	異常なし：定期検査
			その他の非腫瘍性所見		
	意義不明異型扁平上皮	ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い	- a	要精密検査： HPV検査による判定が望ましい ・陰性：1年後に細胞診、 HPV併用検査 ・陽性：コルポ、生検 または、6ヶ月以内に細胞診再検査
	HSILを除外できない 異型扁平上皮	ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い	a - b	要精密検査： コルポ、生検
	軽度扁平上皮内病変	LSIL	HPV感染	a	
			軽度異形成		
	高度扁平上皮内病変	HSIL	中等度異形成	a	
			高度異形成	b	
			上皮内癌		
	扁平上皮癌	SCC	扁平上皮癌		
	異型腺細胞	AGC	腺異型または腺癌疑い		要精密検査： コルポ、生検、頸管および内膜 細胞診または組織診
	上皮内腺癌	AIS	上皮内腺癌		
腺 癌	Adenocarcinoma	腺癌			
その他の悪性腫瘍	Other	その他の悪性腫瘍		病変検索	